

足元のユーロの下落について

フォローアップメモ

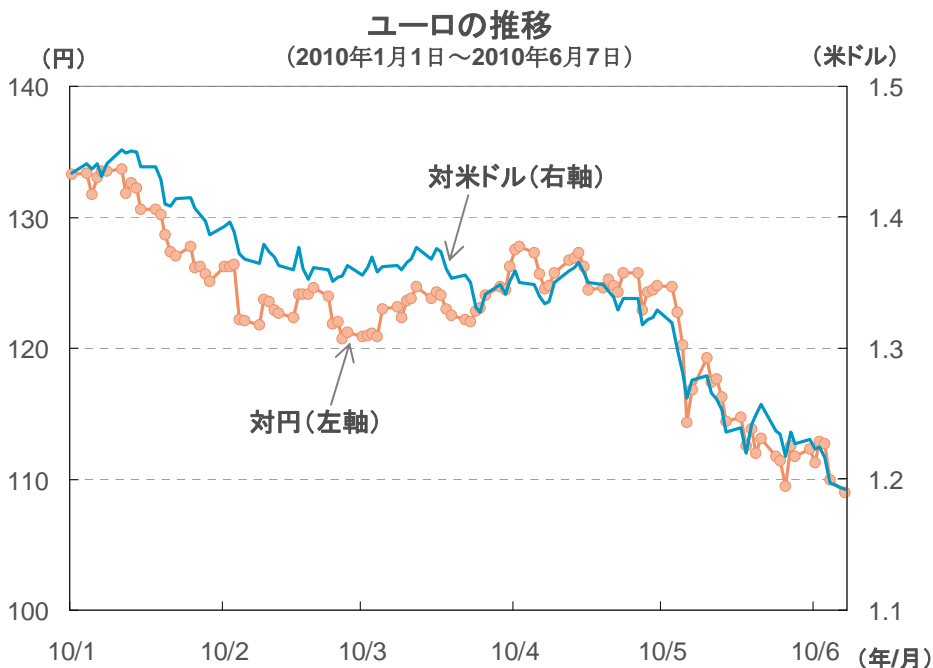
nikko am
fund academy

欧州の財政問題を背景に、ユーロの下落基調が継続しています。ユーロは、6月7日には、一時1ユーロ=1.18米ドル台後半と、2006年3月以来およそ4年3か月ぶりの安値をつけ、対円でも、一時1ユーロ=108円台前半と約8年半ぶりの安値水準となりました。

前週末4日の海外市場において、新政権が発足したハンガリーで「財政状況が従来考えられていたより深刻」という政府関係者の発言が伝わったことなどから、政権交代により統計の粉飾が表面化したギリシャ問題が連想され、ユーロ売りへとつながりました。

そもそもハンガリーの通貨は、ユーロではなく独自通貨のフォリントです。しかし、ハンガリー向けの投融資残高を多く抱えているのが、ドイツやオーストリアなどユーロ導入国の銀行であることから、ハンガリーは金融システムを通じて、ユーロ圏と強い結びつきがあるといえます。そのため、ハンガリーの財政状況に対する懸念が、欧州に対する不信をさらに強くしており、ユーロ安に拍車をかけているとみられます。

ハンガリーでは、新政権が、経済の健全性に関する調査を今週末に公表する予定であると伝えられており、従来の試算よりも財政赤字が膨らむ可能性が警戒されています。仮に、従来の試算よりも財政赤字が膨らむようであれば、統計などに対する疑惑の連鎖が他の国々にも及ぶとみられ、ユーロ売りが加速する可能性が考えられます。



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ、データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

- 当資料は、日興アセットマネジメントが投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ハンガリーの財政問題については、政府与党が有権者を前に財政状況は依然として厳しいと訴えることによって、選挙時に示した減税方針の撤回につなげるなど、財政改善を継続させようとしている可能性が考えられます。格付け会社なども、同国が債務不履行に陥る可能性は小さいとの見方を示しています。

欧州の財政問題に対する懸念の払拭には時間がかかるとみられ、短期的には、新たな不安材料が出るとすぐにユーロが売られやすい環境が続くと考えられます。ただし、ハンガリーの財政状況が明らかになるなど、今後、投資家のセンチメントが改善するような事象が出てくるようであれば、ユーロを支える要因になると考えられます。また、ユーロ安がドイツなどユーロ圏中核国の輸出の増加を通じて、ユーロ圏の景気回復に貢献すると考えられることはユーロの支援材料になるとみられます。

なお、今週10日にはECB（欧州中央銀行）の金融政策決定会合を控えており、南欧の財政問題に加え、新たに高まった東欧諸国の財政問題を受けて、景気見通しや金融政策の先行きにどのような見解が示されるかが注目されます。

以上

- 当資料は、日興アセットマネジメントが投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。